



阪神・淡路大震災記念  
人と防災未来センター

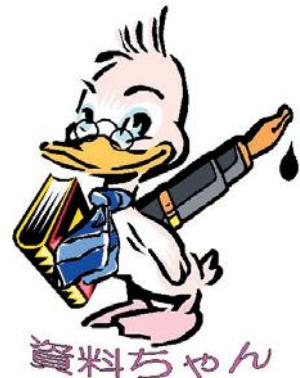
# 資料室 ニュース

Vol.36  
2008年11月  
●発行●

特集

## 「阪神・淡路大震災と水にまつわる問題」

今回は、阪神・淡路大震災時における水にまつわる問題について取り上げます。上下水道の被害や、水不足によって起きた問題などを当センター所蔵の関連資料を交えながらご紹介します。



### 阪神・淡路大震災時における上下水道の被害

阪神・淡路大震災では、市民生活に欠かせない電気・ガス・水道などのライフラインが深刻な被害を受け、それらの被害によって、震災後の市民の暮らしは大変不便なものとなりました。



震災後、給水車から水をくむ人々

兵庫県広報課撮影

ライフラインの1つである水道も大きな被害が出ました。

地震直後、兵庫県下の9市（神戸市・尼崎市・西宮市・芦屋市・伊丹市・宝塚市・川西市・明石市・三木市）と5町（津名町・淡路町・北淡町・一宮町・東浦町の5町、平成17年4月に合併して淡路市）で全戸数の90%にあたる127万戸が断水しました。

兵庫県が行った「生活復興調査」の報告書によると、震災当日に避難した人の避難理由には、「住んでいる建物の安全性への不安(92.3%)」の次に、「断水(72.7%)」が挙げられるほど、水道の被害は被災した人々の生活に打撃を与えました。水道管の損傷などは簡単には復旧せず、震災発生1ヶ月後の2月17日でも、断水世帯は約17万5000戸あり、断水世帯全戸の水道が復旧したのは震災発生3ヶ月後の4月17日でした。また、この水不足は、市民生活に多大な影響を及ぼした上に、震災直後に起こった火事の消火活動を妨げるものともなりました（P2参照）。

震災では、上水道が断水したことに加え、下水道も被害を受けました。公共下水道は、神戸、尼崎、明石、西宮、芦屋、伊丹、宝塚、川西の8市の18下水処理場などが被害を受けました。そして、被害を受けた管渠の全長は約260km、仮復旧が完了したのは約3ヵ月後の4月20日でした。

上下水道の被害のため、各地の避難所では、簡易トイレが設置されました。しかし、設置の遅れや、し尿処理が課題となりました。また、飲料水同様、水洗トイレ用の水の確保が重要な課題となりました。



仮設トイレの掃除をする人々

兵庫県広報課撮影

#### 引用・参考文献

兵庫県発行（2003）『生活復興調査 調査結果報告書』

震災復興調査研究委員会編（1997）『阪神・淡路大震災復興誌第1巻』 p592-603

（財）阪神・淡路大震災記念協会編（2006）『阪神・淡路大震災復興誌第10巻』 p318-319、p354-360

## 長田区における大火災と消火活動

震災時の水不足に関連して、当時の消火活動の様子を紹介します。

神戸市内では、1995年1月17日地震発生直後から27日までに175件の火災が同時多発的に発生しました。しかし、交通渋滞や家屋倒壊などによる道路遮断のため、消防隊はなかなか火災現場に到着できませんでした。しかも、ようやく到着しても消火栓や防火水槽の多くが被害を受け使用不能となっており、消火活動は困難を極め、立ち上がる炎を目前に打つ手がないといった状況すら起きました。



長田区に続々と駆けつける応援隊（1995/1/17深夜）

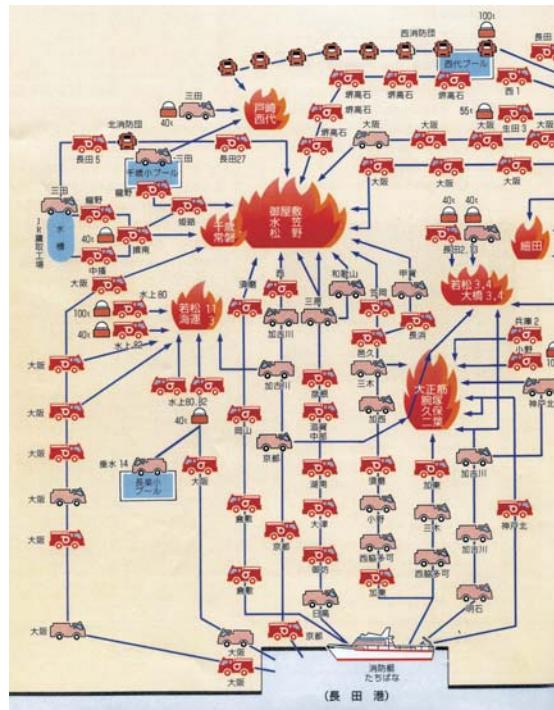
提供：(財)21世紀ひょうご創造協会  
資料番号9000013-001001-4-1



あわただしい長田消防署の様子（1995/1/17深夜）

提供：(財)21世紀ひょうご創造協会  
資料番号9000013-001001-5-1

大規模火災が多発した長田区は、神戸市域の焼損延べ床面積の64%に当たる約52万4,000m<sup>2</sup>が焼失しました。消火用水の不足に対処するため長田港に消防艇「たちばな」を出動させ、海水を汲み上げての消火活動がおこなわれました。近隣の都市から繰り返し駆けつけた応援の消防車のホースを連結して海水を火災現場まで中継送水し、夜を徹した懸命の消火活動を展開しました。



【出典】神戸市消防局編（1995）『阪神・淡路大震災における消防活動の記録』

一方、地元消防団も、団員の多くが自らも被災者であったにもかかわらず、地震直後から消防本部と連携し、消火活動、家屋倒壊の下敷きになった人々の救助活動、住民の避難誘導活動、被害状況の調査、救援物資の搬送、給水活動、被災地の警戒活動など幅広い活動を展開しました。特に、地域住民の生活状況を日頃から把握している消防団は、倒壊家屋のどの場所で誰が生き埋めとなっているかを察知でき、救出活動でめざましい活躍をしました。これら消防団員は、被災地周辺からの応援を含め、延べ7万1千人以上となり、被災者にとって力強い心の支えとなりました。

神戸市長田消防団が編纂した『長田消防団 祈りの足跡』には、消防団員達の手記が多数載せられており、悪戦苦闘した様子や救出しきれなかった無念の思いが綴られています。

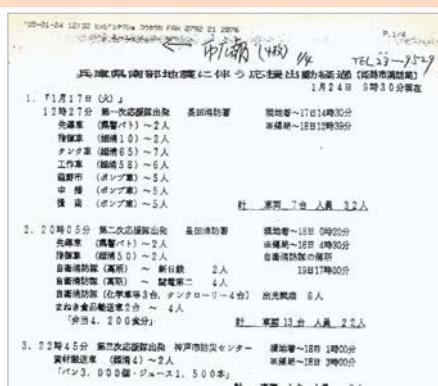


応援隊による消火活動（1995/1/18）

提供：(財)21世紀ひょうご創造協会  
資料番号9000013-001001-3-1

## 所蔵資料から見る消火活動

当センター資料室には、そんな大規模火災に立ち向かった消防隊・消防団に関する図書や資料が多数収蔵されています。その一部を紹介します。



「兵庫県南部地震に伴う応援出動経過」報告書

提供:時事通信社神戸総局  
資料番号0000083-001154-4-255

資料は、1月24日に姫路市消防局から姫路市役所広報課へFAXされ、同日中に時事通信社姫路支局へ転送された「兵庫県南部地震に伴う応援出動経過」報告書です。FAX用感熱紙は経年劣化し判読不能となるため、複写し保存しています。

資料によれば、姫路消防局の第1次応援隊（車両7台、人員32人）は1月17日の12時27分に出発し、長田消防署に14時30分に到着しています。20時45分には、第2次応援隊（車両13台、人員22人）が出発し、消防車と共に弁当4,200食分を積んだ輸送車も2台同伴しました。姫路市消防局からは1月24日9時30分までに延べ22回、84台422人の応援隊を派遣しています。

## 企画展「水と防災」開催中

2008年9月9日(火)～2009年1月18日(日)まで、防災未来館2F 防災未来ギャラリーにて、企画展「水と防災」を開催しています。「水」にかかわる自然災害と防災・減災の取り組みについて、阪神・淡路大震災当時の記録と共に展示しています。資料室ニュースで掲載した資料展示も行っていますので、ぜひご来館下さい。詳細については、センターホームページ (<http://www.dri.ne.jp>) をご覧ください。  
※防災未来館の入館料は大人500円です。



## 関連図書の紹介



本文中で紹介した以外の「震災と水」に関連する図書・資料です。

資料室に所蔵していますので、関心を持たれた方はぜひお越しください。

### <上水道、下水道被害などに関する資料>

題名	著者・記事作成者	発信者・発行者
阪神・淡路大震災 水道復旧の記録	神戸市水道局（編）	神戸市水道局
阪神・淡路大震災 水道応援記録集	名古屋市水道局配水部配水課（編）	名古屋市水道局
FRONT 2003年9月号		(財)リバーフロント整備センター
阪神・淡路大震災 下水道施設災害の記録		兵庫県土木部下水道課
震災時のトイレ対策	震災時のトイレ対策のあり方に 関する調査研究委員会	(財)日本消防設備安全センター

### <消防活動に関する資料>

題名	著者・記事作成者	発信者・発行者
婦人防火クラブリーダーマニュアル	(財)日本防火協会（編）	(財)日本防火協会
阪神・淡路大震災 活動記録誌	阪神・淡路大震災 活動記録誌 編集委員会（編）	(財)全国消防協会



レポート

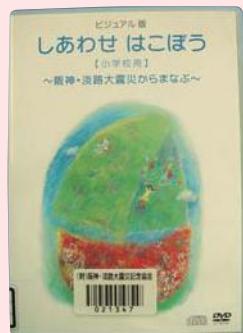
# 第3回震災映像資料上映会 『ビジュアル版 しあわせはこぼう 小学校用』

阪神・淡路大震災を知らない世代に震災の実態をどのように伝えていくのか。被災地では記憶の風化を防ぎ、継承していくことが求められています。

震災当時の子ども達がどのように震災と立ち向かったのか、そして何を学んだのかを親子等で学び、考えていただくため、8月31日(日)に防災教育教材『ビジュアル版 しあわせ はこぼう 小学校用』の上映と、神戸市教育委員会の松崎太亮氏の解説・講演による震災映像資料上映会を開催しました。



松崎氏の解説に聞き入る参加者

ビジュアル版  
しあわせ はこぼう  
【小学校用】

「地しんやつなみはすごくこわいと思いました。地しんで大きなたてものがこわれたのをみると地しんはすごい力があるなあと思いました。(小学生男児)」、「ぜひ他の県の小学校の生徒にも見てもらいたいと思いました。(30代女性)」など、たくさんのご感想をいただきました。

## お知らせ

### 第4回震災映像資料上映会について

次回、第4回の震災映像資料上映会は、消防隊員の物語「ORANGE」の上映と、元消防署長で現在は当センターの語り部ボランティアである西村幸造氏の講話を予定しています。

日 時：2008年11月24日(月・祝) 14:00～16:00  
 場 所：人と防災未来センター 防災未来館5階プレゼンテーションルーム  
 定 員：60名  
 お申し込み・お問い合わせ先：人と防災未来センター観覧案内 TEL 078-262-5050  
 ※参加をご希望の方は事前にお申し込みください。参加費は無料です。

(財)ひょうご震災記念21世紀研究機構  
阪神・淡路大震災記念

資料室は無料で  
ご利用いただけます

## 人と防災未来センター 資料室(防災未来館5階)

〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

TEL.078-262-5058 FAX.078-262-5062

HPアドレス <http://www.dri.ne.jp>

開室時間 9:30～17:30

閉室日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日) 12月29日～1月3日